

台湾放射線学会（TRC 2025）出席報告 福田哲也（オブザーバー参加）

2025年5月3～4日にかけて、台湾・台北市で開催されたTaiwan Radiology Congress（TRC 2025）に出席した。旅程は関西国際空港からEVA航空を利用して渡航した。所要時間はおよそ3時間、時差は日本と1時間のみであり、移動の負担は少なかった。台湾は親日的で治安も良く、文化や食においても魅力が多く、特に台北では夜市文化が盛んで、多くの観光客や地元の人々で賑わっている様子が印象的である（図1,2）。



図1:台北市内の寧夏夜市



図2:故宮博物館からの風景



図3:Gala dinnerでChou理事長らと

学会前日の5月2日には、国際参加者を対象としたウェルカムパーティーが開催され、各国の参加者と和やかな雰囲気の中で交流することができた。学会初日となる3日には、華やかなGalaディナーが行われ、主催者である台湾放射線学会による心のこもった歓迎に深く感銘を受けた（図3）。4日には「1st Asian Imaging

Diagnostics and Therapeutics Forum 2025」が開催され、その後にはネットワーキングディナーが催され、アジア各国からの参加者が学術交流をさらに深める場となった。

同フォーラムはラウンドテーブル形式で進行され、以下の3つのテーマに沿って活発な意見交換が行われた。

1. 放射線科専門研修と認定制度の現状と課題
2. 各国における放射線科医の報酬モデルの概観
3. 放射線教育と報酬に関する今後の方向性

日本からは筑波大学の中島教授が、日本の専門医制度の変遷、現行の研修体制、そして医師の働き方改革について包括的に紹介された。私はその発言を受けて、日本の医療現場での働き方改革についてコメントを加えた。

また、議長のWang先生は、開会挨拶においてこのフォーラムが日本のAsian Radiology Summitからヒントを得て構想されたことに言及され、日台間の学術的つながりの深さを改めて感じる機会となった。

TRC本会では、AI関連の演題が多数を占めていた。台湾がAI技術の研究と応用において世界有数の実績を持つ国



図 4:Forum 発表者中島教授とコメントする筆者



図 5:名市大樋渡先生のフォトンカウンティング CT の講演には多数の参加者が集まっていた。

であることを反映して、放射線科領域においても診断支援、業務効率化、教育応用など幅広い視点からの議論が展開されていた。また、台湾国内での稼働装置はまだ2台にとどまるとのことであったが、フォトンカウンティング CT に関するセッションも注目され、今後の展開に向けた期待と関心の高さが感じられた (図 5)。

滞在中、TRC の President である Chou 先生のご厚意により、台北市内観光を特別にご手配いただき、Chou 先生の奥様、Sophia さんにも同行頂きました (図 6)。迪化街など、歴史と文化が色濃く残る街並みをご案内いただき、温かなおもてなしを賜ったことに、心より感謝申し上げます。またこの度も貴重な機会を与えてくださった。日本医学放射線学会および学会理事の先生方に深く感謝申し上げます。

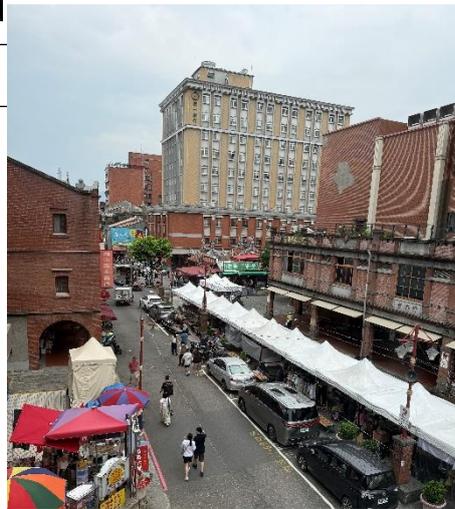


図 6:President の Chou 先生のご厚意で台北市内観光に。同行して下さった奥様の Sophia 様と台湾総督府前での写真。